

富山県立魚津高等学校 アメリカ研修三日目報告書

本日は昨日よりも 30 分早い 8:30 集合でしたが、2 組が遅れての登校となりました。2 組とも時間通り正しいバスに乗れなかったと言うことで残念ながら授業も遅れての参加となりました。昨日の帰宅時も迷ってしまったという生徒がほとんどでした。日が暮れて行く中で周りの風景も朝とは違い、なかなかファミリー宅にたどり着けなかったようです。そんな中で道行く人に助けを求めたり、ホストファミリーに電話をしたりと、解決に向け行動を起こす遅しさも見られました。見ず知らずの自分たちに親切に道案内をしてくれた、ファミリーが迎えに来てくれたなど、人の温かさに触れ感動する出来事となったようです。昨日の学校でのオリエンテーション時にも他国の生徒の言動と自分たちの無反応さを比べ、このままではいけないと今日からの決意を日記に書いている生徒もいます。出発前に再三話題にしていた、リアクションや自発的な行動が出来ていないことに気づき、英語はわからなくても出来ることをしようと今日からの授業に臨んでいます。

クラスでは、ディスカッションなど自分の意見を述べるような時間が総じて難しいと言う感想でした。他の生徒と先生の話している内容がさっぱりわからず呆然としたり、言いたいことが何も言えなかったりと、ブレイクの時間にはかなり打ちのめされた様子で教室から出てきました。そんな中、戸惑っている場合ではないと思いつき、とりあえず持参した日本のお菓子を配って歩いた女子生徒はそれをきっかけに留学生と会話がスタート。話しかけたいけど勇気がない、と様子を伺っていた他の生徒たちもその状況を見て行動力の大切さを実感していました。

午後はハーバード大学を訪れました。ガイドをして下さった趙さんは中国で大学を卒業され、その後スタンフォード大学で修士を取った後ハーバード大学へ入学された経歴の持ち主です。事前にこの情報を伝えていたため生徒たちは“どんな人なのだろう？”と想像を膨らませていましたが、集合時間に現れたのは可愛らしい女性で、彼女が一生懸命話す日本語も相まって一気に緊張が解れました。大学内を歩きながらクイズを出したり、生徒が興味を引くような日本の話題をすることで、生徒たちとの距離もどんどん近づきます。ちょうど空いている教室があり、そこで質問の時間を取ることにしました。どんな質問でも OK と聞き、まず生徒から上がったのはどれくらい勉強したらこの大学に入れるのか？と言う率直な疑問。中国の受験戦争の厳しさを挙げ、高校生のは朝から晩まで毎日、と当然のように答える趙さんに生徒たちは顔を見合わせながら納得と言った表情でした。授業の雰囲気や今学んでいる内容を話してくれた後、趙さんからも「進路は考えていますか？」と質問が有りましたが生徒の返答は「まだ・・・」。実は将来の夢などしっかりと語る彼女も、ハーバード大学進学は高校の先生が決めたと言う意外な話には、驚きの声が上がりました。少しでも多くのことを吸収しようと最後まで集中して趙さんの話には耳を傾け、案内される構内を興味深そうに写真に収めていた生徒たち。短い間でしたが別れ際は名残惜しく離れがたくなるほど貴重なツアーとなりました。

ハーバード大学キャンパスツアー



趙さんの気さくな雰囲気笑顔になる生徒たち



多くの質問が出た質疑応答の時間



生徒代表からお礼の言葉



趙さんさんと記念の一枚